

五代目桂文枝 いちもん新聞

発行

いちもん新聞編集部

〒630-0246 生駒市西松ヶ丘8-8

「いこまのたぬき小屋」内

(有) 文福らくごプロモーション

TEL・FAX 0743-73-6663

桂 文 福

ホームページ 文福部屋

ユーチューブ「たぬき小屋から福もろ亭」

令和7年1月 第128号

賀賀賀々々
今年に昭和百年 戦後八十年
阪神淡路大震災三十年!!
節目の年も五代目文枝一門の
囃でもりあげまつせー!

祈

世界平和
災害復興
健康長寿
笑売繁昌



五代目文枝



繁昌亭 慶枝襲名口上
枝三郎、小文枝、三歩、慶枝、文福、文枝



W 襲名披露パーティー
中之島リーガロイヤルホテル



桂梅枝を囲む繁昌亭楽屋
文華、小文枝、福田治、梅枝、文福、あやめ



繁昌亭の慶枝の
のぼり



森乃石松、生喬、
文福、文鹿、
前・月亭太遊
横綱玉双津土俵入り
露払い三重の牛(笑福
亭生喬)
太刀持若草山(文鹿)
玉双津(文福)



国分家竹翁、文福、花ノ国(野口明宏)



化粧まわし 力士のぼり

敢闘賞トロフィー 明荷



月亭八方、池乃めだか、京山幸枝若、
西川きよし、小文枝、文福

○五代目門弟ビッグスリー元氣!!

昨秋に、五代目文枝門下の枝光が四代目梅枝、六代文枝門下の三風が五代目慶枝を襲名。このW襲名で全国をとりまわっているのが、六代文枝。81才になる筆頭弟子だが創作落語五百席にむけて、A I等を取り入れた嘶にも挑戦し、まだまだ現役バリバリ。二番、三番の小文枝、文珍は共に昨年55周年を迎え、小文枝は繁昌亭にて記念会、吉本仲間の間寛平さんや、中田ボタンさんらがかけつけ、若い頃の「プロボーズ大作戦」の愛のキューピットの衣裳で登場してきん枝時代からの人生をふり返った。文珍はなんと中之島のフエスティバルホールで立川志の輔師をゲストに迎え二千八百席は超満員、これからもこのビッグスリーを手本に一門、皆がんばっていかねば…。

○翔ぶトリウィーク大好評

東京では見習い、前座、二ツ目、真打と階級があり、真打になれば黒紋付ハカマで並び、口上をのべてもらえるが上方はそれがなく改名、襲名以外では口上に並んでもらうことはない。しかし「天満天神繁昌亭」や「神戸新開地喜楽館」があるのだからと、入門十五周年の者に一週間トリをとらそうと「翔ぶトリウィーク」が昨夏からはじまり林家愛染、桂団治郎、桂三語と続いて暮れに文

福五番弟子「和歌ぼん」が登場、修行中、三回脱走した男が何とか十五年キャリアをつんだので文福一門や文福一座の色物芸人達が大挙、応援出演してもらった。二月二十四日からは喜楽館でもトリをとめる。今年の一月は福団治師の愛弟子の福点。笑う門には福点!!

○昭和百年、六回目の当り年

今年には昭和百年の節目。文福は巳年で花のニツパチ（昭和二十八年）三月三十一日の誕生日に繁昌亭で恩返しのを聞く。ゲストは人情嘶の名人四代目桂福団治師、変面マジックの垂空垂SHINさん、けはや相撲甚句会の皆さん、一門からぼんぼ娘と鹿えもん。この繁昌亭を皮きりに、53年間、「落語笑売」でお世話になった思い出の地に感謝を込めて巡演する。

白鹿のはくはくしかじか

師匠文鹿に代わって、よろしく願います。
我々嘶家は、落語以外にも色んな仕事があり、様々な経験をさせてもらえる有難い職業。

一度、バスツアーのガイドとして、ブランド牛の飼育場に訪れた日の事。お客さんと一緒に飼育場に入るや否や、「菌がぎょうさんいってるので防護服を着てください」と、頭からつま先まで全身ビニールで覆われ完全防護。

「牛ってそんな菌だらけなんですね?」「いや、あんたの菌が牛にうつると困る。」
…そっちなかい。

まめだの無口なたぬき

今年も冬が始まり、かぜやインフルエンザに気をつけたいです。かぜを引かないために免疫力を高める事が重要です。身体からいい物質を出すナチュラルキラー細胞やドーパミン、セロトニン、オキシトシン、アドレナリン、ベータエンドルフィン等いろいろありますが中でも3大ホルモンと言われるのがオキシトシン、セロトニン、ドーパミンだそうです。食事、睡眠、運動、笑い、小さな目標達成、太陽の光を浴びる、好きな音楽を聴く、深呼吸、リンパマッサージ等で免疫力を高めます。

「文也の分野」

商売柄乱れた言葉遣いにイライラする。皆さんは「朝・昼」ときたら次どう言う?普通は「晩(ばん)」でしょ。まあ確かに「昼」の対語で「夜」とも言うけど普通は「晩」やろ。それがなんで近頃の若い人や若くなくてもTVCMでさえ夕食を指して「夜ごはん」って言うねん、おかしくないか、気持ち悪ないか、違和感を感じへんか、ご先祖に申し訳ないと思わんか。「朝ごはん」「昼ごはん」と来たら「晩ごはん」やろ!!何やねん「夜ごはん」って。「晩餐会」を「夜餐会」とは言わんやろ。もう一つ頭の悪い奴らが人に聞かれてよく使う「……じゃないけど……」や!!これは答えて何かを比喩または例示する際に使用する定型文や、ことわざや古い言い回しに対してそれが正しいのか無知故の不安から責任を回避するために、また間違いを指摘された時の保険的に「いやだから最初に断ってるでしょ」的な逃げとしての「……じゃないけど……」だ。

例えばカジノができたらくかとか聞かれた若者が「そうっすねえやっぱ一攫千金、じゃないけど……」いや一攫千金やがな。じゃないことはないねん。例えば結婚について聞かれて「まっいつかは彼女にプロポーズ、じゃないけど……」いやそれはプロポーズやろ。じゃないことはないがな。例えば選挙に行ったか聞かれて「やっぱ国民の義務、じゃないけど……」義務じゃアホ!!なんか腹立つわ。まっほっときゃええねんけど将来の日本のため厳しく正しく行くのが世直し、じゃないけど……あつ!!

文香のぶんきょうチック

新幹線等で信号トラブルや大雨で何時間も缶詰になったというのをテレビのニュースでたまに見ることがある。他人事やと…。それがわが身に降りかかるやなんて、思いもしなかった。ちょっと前、

家族全員で北海道に旅行した。十時半に新千歳空港に定刻通りに着陸。さあ、北海道を満喫するぞと座席を立とうとすると「皆様方、しばらくお座席でお待ちください」という機内放送。スマホで検索すると「新千歳空港の売店でハサミが紛失して、出発便の乗客全員降ろされて、再度手荷物検査をやり直している」とのこと。

「降りる客は関係ないでしょ」と乗務員の方に聞くと「駐車場が出発便でいっぱいに入れないという返事。」「ほな、ここからタラップで降りて、バスで運んだらええんとちやいますか」と問うと「はい、その手配をしています。全国からこの空港に飛行機が着陸しています。この飛行機の前に七機待機して、バスを待っています。そのバスも一台しかございません。今、暫くお待ちください」やて。

そんなこんなで、着陸して外に出るまで五時間かかった。予定では空港から登別のクマ牧場に行くつもりだったのが、それがなしになった。動物好きの小学生の孫がクマ牧場へ行くのを楽しみにしていたのに行けずにガッカリしていた。

後日ニュースで、そのハサミのありかがわかった。店員のエプロンのポケットに入ってたまま、ロッカーにしまわれていたらしい。それを知った嫁はん「ええかげんにしいや、エプロンのポケットに入ってた?そのために、うちの可愛い孫がクマ牧場へ行けなかったんやで、その店員に会ったら、めっちゃ切れるわ」と興奮している。横

で思わず「ハサミだけによう切れるな」云うたためっちゃ切れた。

枝女太の「和」のころ

今回からは言葉のお話し。和のころですから当然日本語です。それしか知りませんし。

丁寧な言葉を使おう。子供の頃からそう教えられていると思います。結構なことですが、最近ちよつとおかしいと思うことが。

あの、変なところで丁寧な言葉が使われているんです。テレビのニュースを見ていて、事件を目撃した人のインタビューで「犯人の方があつちの方へ逃げて行かれたんですよね」と答えている人がいました。なんやのんこれ？なん

で犯人にそんなに気を遣わなあかのか。そういうことではないのでしょうね。普段から言葉に敏感になり過ぎていような気がします。ちよつとなんか言うたらすぐに炎上する。一般市民は常にビクビクしていて、先のインタビューのようなことになるんでしょうね。

一方で言葉に一番気を遣わなければならぬはずの政治家がどんどん失言でこちらも炎上してしまっている。なんかおかしいやろ。

文太のむかし噺 ゑ・江戸荒物

(その一)

甚兵衛はんから

江戸っ子弁を教わたった

喜イさん、

さつそく商売にとりかかった。

◇

(客その一)

「わらじ一足、もらえまつか」

「一貫だつて、よせやい」

「いやいや、このわらじ

一足でんね」

「二朱と四貫八百だい」

「このわらじ

一足や言うてまっしやろ」

「天、秤棒でもつて」

「誰がびんぼうやねん！」

◇

(客その二)

「炭屋の親父でんねん。

この糊、もらえまつか」

「二貫や三貫の

代物じゃあねえ」

「これ、八百匁もおまへんで」

「ツラあ洗つて

出直してきやがれ」

「炭屋の親父じゃ。

熊みたいな顔は

当たり前じゃ」

「けだものめ」

(つづく)

文昇問題 その一

最近の家電製品はよく喋る。

車のナビゲーションもその一つで、以前から音声案内はあったが

丁寧過ぎる時がある。自宅付近の月極駐車場に停め、エンジンを切ると、ナビから「盗難多発地域です」と流れてきた。恥ずかしい。

私は盗難の多い土地に住んでいるのか。特に、人を乗せている時は、尚更だ。ただ、言い訳をさせていた

ただくと、意外と「盗難多発地域です」とアナウンスされる所は多い。あるいは、私の行動範囲が犯

罪の多い所と重なっているのか。師匠の奥様を自宅までお送りした時、エンジンを切ると「盗難多

発」と流れてきた。車内は気まぐずい雰囲気包まれた。AIの技術で、その場の空気を読むとか、付度することはできないのか。

「あやめの女王様とお呼び」ある日私が天王寺の駅から自宅に向かっていると、前を歩いてた七十代半ばの男性が崩れ落ちる

ように倒れました。思わずお声がけして、散らばつた荷物片付けたり、救急車呼んだり。ま、救急車

着いた頃には意識もはっきりしてたしホッとして、知り合いの店に寄りました。

「へえ、あやめさん、ええ事しはりましたねえ」「ま、人助けし

たらきつと自分にええ事が返ってくると思うねん。例えばあの助けた人が鴻池善右衛門みたいな大金

持ちで救急車呼んだ私の電話にお礼がしたいて言うてきて百万円くれるとか」「ンなあほな、けど

きつとええ事ありますよ」と言わ

れてそのまま買物に行つたところ

「ショッピングセンターの入口で

ツルンツと滑つて手エ付いたらボキッ！はい、手首骨折です。ええ

事あるどころかバチ当たつてる！けどその一連の出来事も、入院

した同室のおばあちゃんが面白過ぎた事もあつて「骨折れる」とい

う落語になりました。「骨折り損のひとネタ儲け」これがええ事、

やろか？

坊枝の新婚日記

還暦を越え恥ずかしながら妻と大喧嘩をした。前日に老松町の店で食べた鰻の南蛮漬けが美味しくて、ちようど

近隣のスーパーで生鰻に割引シールが貼られていたので買って帰つた。その日は調理をすることがで

きず翌日に鰻のお腹を出して、流しの三角ネットに入れた途端に妻に「何しとんねん！今、生ゴミ

が行つたところでネットもサラやろう」と大声で怒鳴られた。窓は

全開で真下の駐車場でお隣の松浦さんが業者さんと打ち合わせをし

ていたが会話が止まった。周囲を気にせず大声を出すことに腹が立

ち妻を窓のところへグイッと引き寄せ「見てみい、松浦さんがビツ

クリしてはるやろ、恥ずかしい！」と言うと「うるさい！」と

左手の甲を爪で引っかかれて血が出た。

その日は繁昌亭昼席の初日だったので楽屋で若手の人たちに傷を

見せながら事の顛末を説明すると「奥さん、そんなことするようには見えないです」と言うので「うん、見えたら結婚せなんだわ」と言う

楽珍の“警備員”日記

「中山ちゃん！面白い名前の馬がおるよ！絶対笑える名前の馬じゃよ」

園田競馬場で警備員をしている同僚の、中野のじいさんが、本日の出走表を見ながら私に話しかけて来

ました。「え？面白い名前の馬ですか？ホンマでつか？何ちゅう名前です？」

「これ見てみんしゃい！お笑いの通の人でこの馬の名前で笑

わん人はまずおらんじゃろう！特に松竹芸能の漫才のファンの人なら、必ず笑う！！」と、自信満々と

渡された。出走表を見て私は爆笑してしまつた。

「ハルカカナタ」

海原はるか師匠の鉄板の爆笑うす毛飛ばし芸が頭に飛び込んで来て、私も、「いやあ、ホンマに笑

わん人はおらんでしょう。」「この馬な、今ちようどパドック回つと

るからいっしょに見に行こう！」と二人で連れ立つて行つたが……。

遠目に見ても、すぐにハルカカナタ号がわかつた、なぜか

と言うと、1頭だけ、鬣(たてがみ)がビュ〜と1部分だけ長い馬がいた。

「ハルカカナタやあ〜」と

私。しかも、長すぎて邪魔になるのであるう、歩きながら本家さながら、首を左から右へ、大きく振って、バラけてた、鬘(たてがみ)を自分でたて直した。(これだけで、お金が取れるがな。)

そして、いざレースが始まると、やはり、隣を走る馬の顔に、ハルカナタ号の鬘が、かかるので邪魔になるのであるう。隣の馬が息を、フーッと吹きかけていた。「今、園田競馬場は、演芸場より面白いかも、知れない。」

「枝曾丸のつれもてい」

最近、銭湯によく行くんです。近代的なところでなくて昭和の香りがする銭湯。

めっきり少なくなりましたが住まいする和歌山市は最近、有名アーティストが全国ツアーで来た時、僕がよく行くお風呂さんに行った事をブログに載せていてビックリ！

数が少ない割に、意外と結構色んな人で賑わっていますわ。

修業時代、師匠に連れって行って貰った「開運湯」は今はない。脱衣場で、師匠と共に服を脱ぐが、どこまでお手伝いをしていいか解らずに洋服や下着を畳みにいくと「あっちええいけ」。緊張しながら背中をタオルでゴシゴシし過ぎて叱られたりとあんまり良い思い出がないのですが、今になりあの湯気とタイルの感覚が無性に懐かしくなりよく通っています。

師匠がご機嫌の時は、風呂上がりに行きつけである向かいのピエロで小瓶のビールを飲んではりました。

事始めから年越しに掛けて寒い夜に思い出すほっとするエピソードです。

ぼんぼ娘ピーのポンポコナー

大人になると、物や人に対して執着がなくなってくる。あんなに好きだった音楽もドラマも、大人になると色褪せてみえてしまう。きつと大人になる過程で色々な知識や経験を得ることで、新鮮な感動が薄くなってしまうせいだ。感動に鈍感になった自分が本当に悲しい。それに比べて、うちの師匠は本当に素晴らしい。少年時代に憧れていた相撲に未だ心から憧れていて、兄弟子の文鹿が企画した相撲大会では、まもなく72才になろうとは思えない力強さで、相撲をとったが、少年の心を忘れなかった師匠は、少年のような下半身をポロリとしてしまってもろ出しで反則負け。技ではなくわざわざ見せなくていいところをモロダシにしている姿は落語ではなく、わざわざ見せなくてよい余芸を見せて皆をあきれさせている姿とリンクしていて、本当に素晴らしい。ただ修業の足りない私はこれからまわしも師匠も締め付けていこうと思う。

文福のおいちゃんストーリー

今から千数百年前に、野見宿禰(のみのすくね)と当麻蹴速(たいまのけはや)が相撲とったといわれる奈良の相撲発祥の地の近く葛城市に「相撲館けはや座」があり、日本一の相撲博物館といっても過言ではない、本土俵もあり「けはや相撲甚句会」の上演も行なわれ、今やインバウンドの旅行者にも大人気だが、そこで昨秋に私の二番弟子の文鹿が「三十周年記念笑相撲」という会を開いた。記念の会なら各地のホールや繁昌亭、喜楽館などが多いが彼はかつて行司や明荷職人にあこがれていて悩んでいる時に、私が「相撲誌」に連載をしていて、その愛読者としての縁で入門したので、最初の芸名は「ちゃん好」ちゃんこ鍋のようにワァーとわかしちゃんとして好かれるようにと名付けたが、彼はその思いを大事にして私のために「けはや座」を選び、仲間の若手、中堅と落語会をしたあと、相撲大会、なんとこのおいちゃんが優勝!! 中学時代、相撲部で郡大会個人準優勝、団体戦和歌山県大会三位の実力は今も体にしみついてた。若手には「落語で負けても、相撲で勝つぞ」チャンチャン。

そんな私の相撲愛あふれるパティーが暮れに開かれた。「花ノ国さんおつかれさん会」。大阪・河内の藤井寺市出身で最高位前頭筆頭、名大関魁傑関、名横綱輪島関にきたえられ、横綱北勝海関(現・八角理事長)から金星もあげ、敢

闘賞も受賞して幕内二十四場所、35才までいぶし銀の味のある関取だった。親方になれる資格が充分だったが当時の事情で日本相撲協会の「若者頭(わかいものがしら)」に。「ブライドを捨てて、裏方に徹する」と力士生活20年「カシラ生活30年つとめあげ65才で昨秋に定年。最後の場所は、一門の大里関が二度目の優勝を決め、その表彰式の進行役の若者頭として背広をびしょと着こなし、花ノ国さんの姿が全国ネットに……。

その彼をたたえようと私が発起人となり「おつかれさん会」を催した。会場はかつて昇進祝賀会や激励会を聞いたふるさと藤井寺の道明寺天満宮。大広間には「化粧まわし」「力士のぼり」「明荷」「締め込みとサガリ」「敢闘賞のトロフィー」と盾が飾られ華やか。引退してちゃんこ屋さんなど聞くと店内に飾れるものを30年間。実家に保管。宴席では国分家竹翁師、初音家豊若師らと私も河内音頭でもりあげていたら、客席に「けはや座」の小池氏がおられ、ぜひこの化粧まわし等当館に展示したいとのうれしいお言葉。今年の春に、再び脚光をあびる花ノ国関となった。

編集後記

皆様、今年もご笑読よろしゅうお願い致します。この号は正月気分がぬけ、うららかな春もとりすぎる四月末まで各地で配布させていただきます。昨年は芸能界や落語

界でも多くの方が天に召され、さみしい気持で、いっぱいでした。私としてはあの元横綱で粋なダンディーなそしてユーモアあふれる名解説の北の富士の親方が極楽場所の巡業に旅立たれた事も悲しいことでした。しかし、人生いろいろおめでたい事もありました。私たちの修業仲間の浪曲師二代目京山幸枝若師が重要無形文化財保持者いわゆる人間国宝に認定されました。お国の文化レベルは歌舞伎、文楽などに目をむけますが、漫才や浪曲は今まで人間国宝が出なかった。漫才なら「いとしこいし」師匠はまさに人間国宝、浪曲界ももっと早くもらえてたら彼のお父上の先代幸枝若師はじめ、多くの名人師匠方がもらえたはず。二代目幸枝若師は前名福太郎、なんば花月などで落語、漫才、吉本新喜劇などの間で狐軍ふんとう、「笑う門には福太郎」とがなりました。国宝になれば彼の出演は入場料ならぬ拝観料。横で三味線の曲師の師匠は「となりの人間国宝」(関西ローカルのテレビでおなじみ)んなあほな。

まずはおめでとう。もっと書きたいところだけれど丁度時間となりました。皆様もご自愛下さい。(文福)

PS この新聞の編集中に私がお付き合いのある、阿武松部屋の元小結阿武咲関が28才の若さで引退発表。新入幕から三場所一ヶタ勝ち、期待されましたが、ケガで苦勞しました。おつかれ様。第二の人生で大きな花を咲かせてや。

次回詳しく書かせてもらいます。